

令和7(2025)年度 長野県赤穂高等学校 定時制課程 学校評価表				
学校運営計画			<div>評価</div> <div>A : 大変よい</div> <div>B : よい</div> <div>C : 普通</div> <div>D : あまりよくない</div> <div>E : よくない</div>	
学校教育目標	憲法及び教育基本法に基づき、特に次の事項に留意して教育実践にあたる。 1. 生徒の自主性を高め、個性を伸ばし、社会性を養い、実践力のある社会人の育成に努める。 2. 社会および自然に関する科学的思考力を高め、人文領域への関心を深めさせることで総合的学力の涵養を図る。 3. 体育および芸術教育を通して、情操教育を尊重し、心身の調和的発達を期する。 4. 課程・学課の性格を明確にし、相互の協力をはかるなかで、地域に根ざし、特色の発揮に努める。			
重点目標 (中・長期的目標)	働きながら学ぶことで、勤労学生としての自覚と高い理想を持ち、自己の向上を図る意志と態度を養うとともに、自他の生命と人権を尊重し、互いに協力しながら堅実な校風を樹立し、社会に貢献できる人材を育成する。			
今年度目標		具体的目標	評価	自己評価(実績・具体策等)
(1)ICTの活用により、全教職員が生徒の主体的な学習意欲を喚起する授業づくりを心がけるとともに、生徒一人ひとりの個性に合わせた支援を充実させ、個々の進路目標の実現や就労に繋がる確かな学力・表現力を身につけさせることを目指す。		ICTの活用などにより、個々の力量に合わせた個別最適な授業作りを目指す。		
		積極的な学習態度や生活習慣を涵養し、基礎学力の充実に努め、確かな学力を身につけさせる。		
		キャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの就業および進学への意識を高める。		
(2)日々の授業や総合的な探究活動、行事を通じて相互評価の機会を設け、生徒一人ひとりが自己有用感を高め、互いの人権を尊重し合う態度を育て、心身ともに健康でいじめや体罰のない安全・安心な学校をつくる。		行事等での成功体験の積み重ねを増やし、生徒一人ひとりの自己有用感を高めさせる。		
		お互いの人権を尊重し、責任を持った分別ある行動ができる生活指導を進める。		
		いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、生徒が示す変化を見逃さないよう心がけ、いじめを積極的に認知するとともに、いじめの実態把握に努める。		
(3)全教職員が地域からの信頼や支援の大きさを十分に理解し、生徒の学習成果を積極的に発信することで地域が生徒を理解し、また生徒も地域を理解し地域貢献をしようとする姿勢を育てる。合わせて、赤穂総合学科新校(仮称)においても定時制課程がより大切な学びの場となるよう、新たな学校づくりに取り組む。		社会に出て通用するマナー指導の徹底を図る。		
		校外学習や講演などを通して地域について探究的に学ぶ機会を設けて、生徒一人ひとりが社会貢献への姿勢を育むことを目指す。		
		家庭・地域・職場との連携を強化するため、WEBページによる情報発信や定時制振興会との交流を通して、開かれた学校作りを目指す。		
領域	評価項目	評価の観点	評価	自己評価(実績・具体策等)
教育課程	教育課程を検討する。	学習指導要領の趣旨を反映させ、本校教育目標の実現に即した教育課程となるよう検討する。		
教科指導	授業内容や方法の工夫・改善に努める。	基礎的・基本的内容を重視した指導(学び直しを含む)を行い、基礎学力の確実な習得・基礎技術の習熟を図る。ICT機器の利用などにより分かりやすい授業を行う。		
	授業態度の改善を図る。	授業に不必要な物を片付けさせ、学習環境を整えて授業に臨ませる。授業の中に生徒指導の機能を生かす。		
	生徒個々の実態に合った指導を行う。	生徒の実態を理解し、それぞれに合った授業法を工夫して、個別支援を行う。ICT機器による学習も活用していく。		
生徒会・部活動	生徒会活動の活性化を図り、自主的・自立的行動ができるように指導する。	生徒会活動を通して自主性や責任感、コミュニケーション力などを身につけ、学校生活を充実させることができたか。		
	生徒会活動の精選と次世代への継承をする。	積極的に行事に関わることににより生徒会活動への意欲を高め、進級後に役員または上級生として活躍できるよう指導できたか。		
生徒指導	望ましい基本的生活習慣を育成する。	服装・態度・時間厳守・喫煙・薬物乱用防止等に関する生徒指導上の問題点に対して学校保健委員会等と連携し学習を深め一層の徹底を図る。		
	問題行動を起こした生徒に対して、丁寧で継続的な指導を行う。	生徒指導担当、学年を中心に生徒相談委員会と連携し、組織的・継続的に指導を行う。家庭や地域との連携を密にし、協力して指導にあたる。		

領域			評価	自己評価(実績・具体策等)
安全指導	四輪、原付、自転車の安全で正しい運転ができるよう指導する。	年1回の実技講習を実施し、交通法規の遵守を徹底することができたか。自転車においては保険加入とヘルメット着用を徹底することができたか。		
	生徒が交通社会の一員としての自覚を持つよう、指導する。	年1回の交通安全教室を実施し、生徒の交通安全意識を高揚させることができたか。生徒がリスクある道路交通環境への適応するための資質・能力を育むことができたか。		
		校内巡視指導を実施し、交通マナーの指導を行うことができたか。		
進路指導	社会や経済状況を的確に分析・把握し、社会の実情に応じた適切な進路指導を行う。	充実した進路指導ができるように、指導体制の整備に努める。		
		各種資料を提供し、進路目標を適切に決定できるように指導する。		
	生徒の能力や特性を生かした進路指導の充実に努め、進路選択や進路決定を支援するために、正しい勤労観や職業観・学業観を育成する。	特に就職が厳しくなることから担任を中心に、学年に応じた就業指導を実施する。普段から面談する時間を設けて生徒と意見交換を行う。 ハローワークや地元企業(上伊那中心に)との連携や、その協力を得ながら積極的に求人開拓をする。		
		生徒の進路希望に対応できる教育課程を設定し、進路指導を行う。		
キャリア教育	勤労学生として生活を送る中で、将来設計と就業への移行を実現させ、社会的・職業的に自立した人間を育成する。	パート・アルバイト等への就業指導をLHR等を使い継続的に行う。		
		人生発見講座、生活体験発表会、講演会等を通して将来の自分をイメージできるようなキャリア教育の推進を図る。		
人権教育	教育活動の全分野で、人権教育の視点から生徒一人ひとりを大切に、生徒の自尊感情を育て、自己実現に向けて自らの進路を切り拓く力を育成する	講習会の実施、ネットモラルについての学習、視聴覚教材などの活用により理解を深めることができたか。		
		全体計画に基づき、道徳教育を推進することができたか。		
健康指導	心身の健康を保持増進するために、健康診断・健康相談・保健指導を計画的に行うとともに、安全で衛生的な学校環境作りに努める。	健康観察、感染症予防教育を継続的に行い、自他の健康を守る力を養う。		
		疾病の早期発見、早期治療を目指して実施する各種検診、健康相談を進んで受ける姿勢を養う。		
		生徒相談委員会と連携し、必要に応じて「心の相談」や「性の相談」を実施する。		
	生徒が健康問題を生涯の課題として考えられるようにする。	性教育講座(人生発見講座)を通して、性や心身の健康等を自身で管理できる力を養う。		
生徒相談	誰もが相談できる雰囲気をつくる。	googleフォームによる相談アンケートを年数回実施する。		
	悩みを持つ生徒からの相談体制を確立する。	口頭での申し出がうまくできない生徒には、声がけをするなどして、生徒相談を深める。		
		定期的に「生徒相談だより」を刊行する。		
家庭・地域・職場との連携	学校開放などで積極的に本校をPRするとともに、PTA・同窓会・定時制振興会・地域との交流に努め、開かれた学校作りを目指す。	生活体験発表大会を通して、他校生徒や地域との交流を推進する。		
		PTA・学校職員によるレクレーションなど交流を推進する。		
		定時制振興会総会を実施する。		
いじめ防止	いじめを未然に防止する。	人権教育、情報モラル教育、教育相談週間、教員の校内研修等をバランスよく計画、実施する。		
	いじめを早期に発見する。	定期的なアンケート調査や面談の実施等により、生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保ち、いじめを積極的に認知する。		
	いじめに早期に対応する。	いじめと疑われるものすべてに組織的に対応し、当該生徒や保護者の痛み・苦しみと向き合う。		
	ネット上でのいじめに対応する。	インターネットの安全な利用について生徒が自ら考え自ら行動するためのスマホ・ケータイ安全教室を実施する。		